



No.93 2009・9・15



ISHIKAWA-KEN HISTORY MUSEUM
 発行 石川県立歴史博物館
 〒920-0963 金沢市出羽町3番1号
 TEL.076(262)3236 FAX.076(262)1836
<http://www.pref.ishikawa.jp/muse/rekihaku/>

ISHIKAWA-KEN
 HISTORY
 MUSEUM

れ
 き
 は
 く

親鸞聖人750回大遠忌記念

本願寺展

世界遺産の歴史と至宝



松鶴図 江戸時代

会 期 9月19日(土)~11月3日(火・祝)
 休館日10月13日(火)

会 場 第1特別展示室・第1展示室
 開館時間 午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)
 入 館 料 一 般 1000円(900円)
 大学生 800円(700円)
 高校生以下無料 ()内は前売または20名以上の団体料金

主 催 石川県立歴史博物館 浄土真宗本願寺派 朝日新聞社
 北國新聞社

後 援 文化庁 石川県教育委員会 福井県教育委員会 富山県
 教育委員会 新潟県教育委員会 北陸放送 石川テレビ
 放送 テレビ金沢 北陸朝日放送 金沢ケーブルテレビ
 ネット エフエム石川 ラジオかなざわ ラジオこまつ
 ラジオなお 福井新聞社

特別協力 龍谷大学 朝日放送
 協 賛 ニッセイ同和損害保険株式会社 野崎印刷紙業株式会社

記念講演会 <聴講無料・定員300名 当日先着順>

日 時 9月27日(日) 午後1時30分~
 会 場 石川県立生涯学習センター
 (金沢市広坂2-1-1)
駐車場スペースがあまりありませんので、
 会場へはなるべく公共交通機関をご利用下さい。

講 師 本願寺史料研究所副所長 金龍 静 氏
 演 題 「戦国期の本願寺と北陸」

ミュージアムウィーク協賛講演会
 <聴講無料・定員80名 当日先着順>

日 時 10月3日(土) 午後1時30分~
 会 場 学習ホール
 講 師 龍谷大学文学部准教授 岡村 喜史 氏
 演 題 「本願寺の歴史と文化
 展示資料から見る」

親鸞聖人七百五十回大遠忌記念

本願寺展

世界遺産の歴史と至宝

ど書物のほか、光明本尊、六字名号、九字名号、十字名号、阿弥陀如来絵像などの本尊類、聖徳太子関係など、浄土真宗の根本資料が展示されます。

などの絵画類を展示します。それぞれ単独の資料としても価値の高いものですが、これらが本願寺という場所に集まっているということが、当時の勢力関係を探るうえからも興味深いことです。

二、日本史のなかの本願寺（資料八十五件）

はじめに
鎌倉時代に、浄土真宗を開いた親鸞は、一二六二年（弘長二）に亡くなりました。来る二〇一一年が没後七百五十年にあたることから、浄土真宗の各派ではその遠忌を記念してさまざまな事業が計画されています。浄土真宗本願寺派（本願寺Ⅱ西本願寺）では、記念事業の一環として、所蔵する文化財を一室に公開する展覧会を実施しています。本展は、その金沢展にあたりますが、石川県が「加賀一向一揆」（一四八八年）以来「真宗王国」と呼ばれるほどに、浄土真宗の盛んな土地柄であったことから、意義深い展覧会となっています。

展示の構成（第1特別展示室）

一、親鸞聖人と浄土真宗（資料四十五件）
ここでは、親鸞の映像をはじめ、木像、恵信尼（親鸞室）関係資料、親鸞伝絵などの絵伝類など、宗祖に関わる資料が展示されます。また、『教行信証』、『歎異抄』、『唯信抄』な

展示の構成（第1展示室）

二、日本史のなかの本願寺（資料八十五件）
ここでは、親鸞後の本願寺の歴史として、二代如信以降、十一代顕如まで、東西分派以前の歴代宗主の映像をはじめ、西本願寺初代の准如の映像、歴代宗主職の譲り状などの継職の資料が展示されます。さらに、廟堂から寺院へと発展していく経過のなかで、高貴所からの寄進関係や、建築関係資料、その経過が記されている『天文日記』などが展示されます。また、八代蓮如以降は、一向一揆や石山合戦など、時の権力者と真つ向からわたり合う勢力として、日本史の中で大きな位置を占めています。その関係の展示として、蓮如関連資料、戦国期の天皇家との関係、信長との対立以降歴代権力者との対応を示す資料が展示されます。

* 石川の本願寺関係資料（資料九件）

より身近に感じていただくため、本館が所蔵する資料の中から蓮如関連の映像や名号、御文、顕如画像、東本願寺再建縁起絵巻などを展示します。

展示資料のみどころ

親鸞の映像
国宝の安城御影（副本）、重文の熊皮御影、等身御影（真向御影）、花の御影の四点が展示されます。なかでも、花の御影は、親鸞が合掌する姿で背椅子に座っており、その背板に一对の蓮の花が描かれています。遺骨の記録とともに興味の尽きない御影で

三、本願寺の至宝1（資料十三件）

天皇家から拝領した『三十六人家集』や『栄花物語』、天皇の親翰などの書跡類や、『慕帰絵詞』や『雪中柳鷺図』、『平沙落雁図』

す。期間中、四点のうちから必ず二点が展示されているように工夫しています。



重文 熊皮御影 奈良国立博物館蔵

戦国大名の書状

武田信玄、織田信長、羽柴秀吉、徳川家康、毛利輝元、前田利家など戦国時代の実力者たちが本願寺とやり取りをしていた書状です。緊張関係の表れでしょうか、とてもきれいな文字で書かれた書状なので、古文書の学習にもぴったりです。

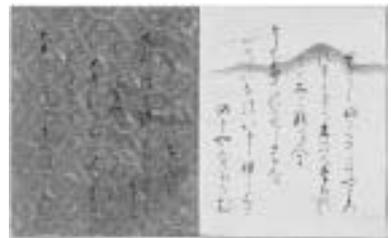


武田信玄書状

国宝 三十六人家集

家集とは、一人の歌人やその家族に限られた和歌を集めたものを行い、歌集と区別しています。三十六人家集は、三十六歌仙に数えられた歌人たちの和歌を編集した家集です。

この展覧会では、業平集、興風集、小大君集、宗于集、敏行集、兼盛集、元真集の七帖が展示されます。文字のきれいさもありませんが、色替りや重ね、張り合わせなどの料紙の見事さもぜひ御覧ください。期間中、七帖のうちから必ず三帖が展示されるように工夫しています。



国宝 業平集



国宝 元真集

障壁画と天井絵

本願寺は、巨大な両堂（阿弥陀堂と御影堂）のほかに、書院をいくつも持っています。和様の建築で、襖や板戸、天井には見事な絵画が描かれています。また、欄間の両面彫りなども見ごたえがあります。



本願寺白書院 菊の間天井絵(扇づくし)

担当者は、天井絵が好きです。展示すると一メートル四方くらいですが、実際に格天井（格子の天井）にはめられているところは、三十センチメートルの色紙くらいに見えますよ。その距離を想定して大きな絵柄に描かれたんです。

おわりに

親鸞が好きだから、日本史が好きだから、きれいな絵が見たくて、古文書の勉強になるかも、真宗の檀家やしゝなど、いろんな見方ができる一級品の資料が展示されています。

今回の展示約百五十件のほとんどは、本願寺が東西に分かれる前（戦国時代まで）の資料です。加賀と一向一揆の歴史や、なぜ石川県には東本願寺の檀家が多いのかといった疑問へのヒントもいっぱい。さわやかな季節に、ふらりと覗いてみませんか？

貸出中の館蔵品

他の施設でも見られる歴博の貴重資料

歴博の館蔵資料は総数約十六万点にも及びますが、その一部は、県内外を問わず、他館の展覧会に貸し出されるものが少なくありません。また放送局や出版社へのポシフィルムなどの貸し出しも、よく行われています。展覧会や催し物などに比べるとあまり知られていない業務ですが、これも博物館の重要な仕事のひとつなのです。

- ・「鈴見鑄造所出土砲弾」
- ・「鉄砲弾」
- ・「エンフィールド銃」
- ・「短銃等受取状」(小川家文書)

- ・「弾薬請払決算帳」(小川家文書)

ほか計八点

特別展「加賀藩の塩硝 生産と施設」

十月十日(土)～十一月二十二日(月・祝)

会場 金沢市立玉川図書館近世史料館

(金沢市・〇七六 二二二 四七五〇)

- ・「篠井家系図」
- ・「先祖由緒一類附」
- ・「松本・篠井由緒之義二付書状」
- ・「篠井家由緒等義二付返書之控」
- ・「縁者トシテノ交誼申入状」

特別展「天地人と本多家」

計五点

会場 藩老本多蔵品館

八月一日(土)～十一月十五日(水)

会場 藩老本多蔵品館

(金沢市・〇七六 二六一 〇五〇〇)

- ・石川県指定文化財「金沢城下図屏風(犀川口町図)」

計一点

特別展「描かれた城下町」

十月二十四日(土)～十一月十九日(日)

会場 徳島市立徳島城博物館

(徳島市・〇八八 六五六 二五三五)

- ・紅糸威仁王胴具足

- ・石川県指定文化財「白羅紗地日の丸文陣羽織」
- ・文化庁主催「侍の芸術」

計一点

会場 メトロポリタン美術館

(アメリカ・ニューヨーク市)

十月二十日(火)～十一月十日(日)



紅糸威仁王胴具足



弾薬請払決算帳(部分)



県文・金沢城下図屏風 (犀川口町図)

主な刊行物のご案内

石川県立歴史博物館展示案内

(税込定価)

石川県立歴史博物館展示案内	一、〇〇〇円
石川県立歴史博物館蔵品目録	三、五〇〇円
冷泉家の歴史と文化	〇〇〇円
モダンの調べ 蓄音機	〇〇〇円
太子信仰と北陸 聖徳太子へのあこがれ	二〇〇円
永光寺の名宝	二〇〇円
紀尾井町事件 武士の近代と地域社会	七〇〇円
うさぎワンダーランド	七〇〇円
祝い絵 ディスフレイの民俗誌	〇〇〇円
能楽 加賀宝生の世界	二〇〇円
利家とまつが生きた時代 戦い・くらし・女たち	九〇〇円
景勝をめぐる いしかわの景観史	二〇〇円
いしかわの歌仙絵馬	四〇〇円
風俗画伯 巖如春 都市の記憶を描く	四〇〇円
源平合戦と北陸 義経伝説を育んだふるさと	六〇〇円
加賀百万石への道 戦国から太平へ	二〇〇円
昭和ワンダーランド モノでたどる戦後	〇〇〇円
石川のお宝史 名宝から文化財へ	三〇〇円
弥生ムラの風景 越のクニ生み・境界・交流	二〇〇円
御用絵師梅田九栄と俳諧	三〇〇円
肖像画にみる加賀藩の人々	四〇〇円
ASO DOME 華・綾・乱 丸紅所蔵衣裳名品展	五〇〇円
春日懐紙・春日本万葉集とふるさとの文芸	五〇〇円
本願寺展 世界遺産の歴史と至宝	三〇〇円

総合カウンターで販売中。定価はすべて税込。郵送ご希望の方は、当館へ直接お問い合わせいただくか、当館ホームページ「刊行物案内(図録等)」をご覧ください。(電話〇七六 二六二 三三三六)



石川の歴史遺産セミナー開催

七月二十五日、石川の歴史遺産セミナーを開催。七回目となる今回のテーマは「女性をとりまく宗教世界」。各時代の宗教的思想背景から、女性をとりまく禁忌や差別などの問題を考えていくとするものです。県外から三名の講師をお招きして発表をいただいたあと、パネルディスカッションも開かれ、熱い討論が交わされました。



今年も元気にわくワーク (work) 体験

金沢市内の中学生が参加する「わくワーク (work) 体験」。これは県教育委員会主催事業で、学校を離れて三日間の職場体験を行うものです。今年七月月上旬に額中学校(六名)、兼六中学校(六名)、下旬に紫錦台中学校(五名)が参加。初めての職場に緊張しながらも、みんな懸命に取り組んでくれました。



催事日録

八月九日、石川県の国際交流事業の一環として、中国江蘇省青少年訪問団の一行(十一名)が当館を見学。団員は南京市の高校生たちが中心で、初めて目にする石川の歴史や生活資料に、みんな興味津々の様子。最も注目を集めたのは大名行列図屏風と白山麓移築民家だったでしょう。身を乗り出すようにして興味深く見入っていました。



七月二十七日から八月一日までの六日間、博物館学芸員実習を実施。これは学芸員資格を取得する場合には必修となる、博物館法で定められている現場実習です。今年度は学芸員講座を開講している全国各地の大学から十一人の学生が参加。当館学芸員の指導のもと、資料の取り扱いや収蔵庫の整理など、熱心に取り組んでいました。



中国江蘇省青少年訪問団来館

学芸員への登竜門・博物館実習

行事日程(9~12月)

月日	行事	内容
9/20(日)	本願寺展 見どころ講座	本願寺展 歴史をみる (資料課長 濱岡伸也)
10/4(日)	常設スポット解説	本多の森 屋外展示ツアー (普及課長 前田武輝)
10/17(土)	本願寺展 見どころ講座	本願寺展 美術をみる (学芸主幹 本谷文雄)
10/31(土)	本願寺展 見どころ講座	本願寺展 文学をみる (資料課長 濱岡伸也)
11/1(日)	常設スポット解説	北前船の時代 (資料課長 濱岡伸也)
11/21(土)	れきはくゼミナール	米林八十八再考 (学芸課長 本康宏史)
12/6(日)	常設スポット解説	石動山境内古絵図について (学芸主幹 北春千代)
12/19(土)	れきはくゼミナール	渤海交渉と羽咋 (学芸主査 永井浩)



常設スポット解説



れきはくゼミナール

開講時間：午後2時
ただし9/20(日)・10/17(土)・10/31(土)は午後1時30分開講です。ご注意ください。
会場：常設スポット解説：各関係展示室
本願寺展見どころ講座・れきはくゼミナール：学習ホール
受講料：無料 常設スポット解説は無料。ただし他の展示申し込み：不要 当日受付へお申し出下さい。
本願寺展開催期間中の「れきはくゼミナール」は、「本願寺展見どころ講座」として開講いたします。

れきはく
トリヴィア

商家が歴博へやって来た日

移築した家屋が集う第三展示室。その中で厚重なたたずまいをみせる白山市（旧鶴来町）の商家。これも前回取り上げた能登の舟小屋同様、実際に使われていた家屋を移築したものです。

歴博は昭和六十一年秋に開館しましたが、この時点では第三棟が未整備で、全館フルオープンするまでに、その後四年の歳月を費やしています。公開された展示室もすべてが完全とはいえず、第三展示室では「町のひとびと」コーナーが未整備でした。現在商家のある一画も、館蔵品を中心に県内の年中行事などを紹介する、仮の展示スペースだったのです。



さて、「町のひとびと」コーナーの整備計画は、「コーナーのシンボルとして商家を移築」という方針で進めていたので、展示室のスペースに合うような商家が、いざとなるとなかなか見つかりません。そのうちにタイムリミットとなり、もはや万策尽きて基本

的な展示案を見直す必要に迫られ、みな頭を抱え込んでしまいました。ところがちょうどその時「道路改良事業計画のため、明日にでも取り壊される商家が鶴来にある」という情報が飛び込んできたのです。調べてみると、すでに金沢工業大学建築学科の調査が入っており、その報告では天保期以前にまでさかのぼる、県内に残る商家としては最古のものであることも判明。早速所有者や事業主体者（旧鶴来町）にお願しいし調整を進め、取り壊し寸前のところで歴博への移築が決まったのです。所有者からも「文化財としてこの建物が残るなら、最大限協力します。」と、このようにご承諾をいただきました。



移築直前の商家（白山市・旧鶴来町）



復元作業中（平成元年10月）

こうして移築工事が完了したのが平成元年十月十三日。この世から消えようとしていた貴重な文化財が、歴博で再生した日です。まさに幸運の一言…。

お知らせ

常設展示室の一部閉室と「なるほど歴史館」の開催

1. 本願寺展開催にともない、常設展示室の一部を閉室します。
期間 9月1日（火）～11月9日（月）
閉室される展示室 第1展示室（原始古代～近世）
第2展示室（近世～近現代）
第3展示室（民俗）
2. 第4～8展示室と歴史体験コーナー（近世編）はこれまでどおりご覧できます。
3. 第2特別展示室で、「なるほど歴史館」と題して「資料で学ぶ石川の歴史」の展示を設けます。クイズ形式で歴史が楽しめる展覧会です。
当館ホームページでもお知らせしていますので、ぜひご覧下さい。

展示替え等による休館日（9～12月）

- 9月14日（月）～18日（金）
- 10月13日（火）
- 11月4日（水）～9日（月）
- 12月28日（月）～31日（木）

本多の森から

本紙やホームページでもお知らせしていますが、本願寺展会場として常設展示室の一部が使用されるため、やむをえず期間中閉室される展示室があります。皆様には大変ご迷惑をおかけすることとなり、申し訳ございません。どうかご了承下さい。さて、第2特別展示室では「なるほど歴史館」を本願寺展にあわせて同時開催。子供も大人も楽しめるクイズ形式の歴史ワールドです。ぜひご覧下さい。